

電気自動車 (EV) の普及が 2016 年に世界で 200 万台に達す！

2017年6月7日 IEA News より

国際エネルギー機関 (IEA) の Global EV Outlook の最新版によると EV の販売は 2015 年も急激に成長しましたが、世界の EV の普及台数は 2016 年に 200 万台に達しました。中国は 2016 年も世界最大の市場であり、世界で販売されている電気自動車の 40%以上を占めており、電動 2 輪車が 2 億台以上、電気バスが 30 万台以上普及しており公共交通機関の代表格バスの電化技術では、世界的にリードしていると言っても過言ではありません。

中国、米国、欧州が世界 3 大市場を構成し、世界で販売されているすべての EV の 90%以上を占めています。国別に見ても、例えばノルウェーでは、昨年の EV の市場シェアは 29%で世界で最も高く、オランダが 6.4%、スウェーデンが 3.4%と北欧が普及をリードしています。EV 市場のこれからの 10 年は、普及の黎明期を過ぎて普及が加速する段階に入っていると思われます。

自動車メーカーからの最近の声明に基づく予測によると、EV の普及台数は 2020 年までに 920 万台、2025 年までに 4020 万台の普及が見込まれます。それでも 2016 年の EV の普及は全乗用車の 0.2%に過ぎず、温室効果ガス排出削減目標に大きく貢献できる様になるまでには、まだまだ相当の時間がかかりそうです。

IEA によると、20 世紀末までに温度上昇を 2°C以下に抑えるために、EV の普及台数は 2040 年までに 6 億台に達する必要があると報告しています。

都市は排気ガスによる大気汚染を懸念し、EV 導入を促進しリーダーシップを発揮しています。主要な都市部では、EV の市場シェアがその国の全国平均よりも高くなることが多く、例えば、パリでは、オートリブと呼ばれるカーシェアリングの車は EV を使用し、指定充電スタンドの利用を義務付けています。アムステルダムは、公共の駐車スペースに充電スタンドを設置し、実際に必要な場所に充電スタンドを設置する戦略を進めており、ロンドンでは、EV は渋滞税が免除され、EV 導入を奨励しています。

この様に、早期に EV を普及促進する重要な手段として、公共および民間の両方で、市場で EV の恩恵を PR することが、初期段階の EV の普及促進に貢献することができます。また、EV の普及を促進する一つが公共の様々な車両を EV に置き換えることです。

その点で、米国のロサンゼルス、シアトル、サンフランシスコ、ポートランドの4つの主要都市では、警察車両、路面掃除車両、ゴミ収集車など公共車両をEV仕様として購入促進を30都市以上に広げています。これら公共車両だけでは現在11万台以上のEVが購入されており、2016年に米国で販売された16万台のEV車と比較するとかなりの数となります。

EVのデータは電気自動車イニシアティブ（Electric Vehicle Initiative - EVI）の加盟国政府から収集された主要データに基づいて、EV展開に関する世界レベルのデータを包括的に収集しています。EVIは、クリーンエネルギー閣僚（Clean Energy Ministers - CEM）の下で2009年に設立されたマルチ政府政策フォーラムであり、世界中のEVの展開を加速させることに専念しています。

EVIメンバーは6月8日の第8回CEM会合で北京でEV30 @ 30キャンペーンを行います。このキャンペーンは、2030年までに全乗用車、軽商用車、バス、トラックの合計で電気自動車の市場シェアを30%を目指し、EVIのすべてのメンバーの総括的な目標としています。このキャンペーンでは、EVの充電インフラ、車両調達に関する約束ごとや、都市におけるEV車普及のためのベストプラクティスの交換やアイデアを取込むことも含まれています。

明確で野心的な政策支援は、IEAの低炭素シナリオでのEVの進展を維持し、都市の大気汚染を改善し、輸送エネルギー源を多様化するために不可欠です。過去10年間、多額のコストを掛け、エネルギー密度の大幅な改善にもかかわらず、バッテリーパックは依然として高価であり、EVの小売価格を押し上げています。EV技術導入の現段階では、EVの導入と化石燃料に対する税制のための財政的インセンティブは、売上の拡大、生産規模の拡大と技術革新を通じて、バッテリーおよびその他の部品のコスト削減をさらに推進することが、引き続き重要であります。（了）